

あるある研修 「気になる子との関わり」

■ 主な内容

- ・ 2歳児から入所。衝動性、落ち着きのなさが目立つT児
- ・ 現在は年長児となって、多動、衝動性に磨きがかかる
- ・ 集団になじめず、自己中心的な行動がある
- ・ 担任が関わりに奮闘しながらも、距離が縮まり、怒ったり泣いたり、叫んだりの毎日を過ごす。
- ・ T児の気持ちをどのように理解していくことが必要か

■ 幼児と保育者のようす

保育者：みんなのところに行かない？

T 児：嫌だ、今、遊んでるから

保育者：みんな外で遊ぶんだって。

T 児：だから、今これで遊んでいるから嫌だって

保育者：そう、じゃあこの遊びが終わったらみんなのところに行って遊ばない。

A 児：一緒に手をつなぐから、外にいこうよ

T 児：嫌なのにくるさいな。

保育者：Aくんが手をつないでくれるって、嬉しいね

A 児：もう行っちゃおうよ～

T 児：も一先に行けよ

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ T児にとって必要な関わりは何でしょうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ T児の気持ちで理解する必要があるのは何でしょうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「気になる子との関わり」

■ この園での取組

- 気になる子というフレーズを研修テーマにすると、各クラスから様々な気になる子が浮上する
- T児の様子は全職員が気に掛けている。関わり方に様々な工夫が必要であることを理解している。しかし、保育者達は各々が工夫しながらも難しさを感じていることも事実である。まずはT児を理解することから始める必要がある。
- T児の担当が日々の様子や気になる事柄を打合せや月案会議などで報告する。周知して、現在困っていることを話し合う。また、現在の対応として心がけていることを報告する。
- その子を知って、問題ばかりに目を向けるのではなく、どのような関わりが最善なのかを職員間で共有していくことが大切

■ ワンポイント

- T児の様子を知ることから始める。T児がどのようなときに感情が高ぶり、問題行動に発展するのかを見極める。
- 職員全体で課題を把握し、改善策を出し合って共有する。保育方法を見つめ直し、日々の保育を振り返りながらT児との関わりに必要事項を探す。

あるある研修 「小規模保育園の毎日」

■ 主な内容

- ・企業型保育園 12名定員
- ・夕方、おやつも終わり混合保育が始まる時間
- ・4才児1名、2才児2名でごっこ遊び。
Aちゃん(4才児)は頭の回転も早く
Eちゃん(2才児)は4月生まれで
Hちゃん(2才児)は1月生まれでマイペースな子。
- ・カゴ、クッション等を使って家を作り、お人形、ぬいぐるみを持ってごっこ遊び。
- ・次々に色々な場面を想定し、大人っぽい口調で遊びを広げていくAちゃん。
- ・「〇〇行くよー。」「Eちゃん、お姉ちゃんになって!」とAちゃんのリードで遊びは続いていく。
- ・途中、Eちゃんが困り顔になり、Hちゃんもハンカチ等を押さえて泣きそうな様子。

■ 幼児と保育者のようす

(おやつ後混合保育になってから)

A 児：(お母さんになって)

「メルちゃん、髪洗おうねー。」

等と言いながら、カゴやクッションを使ってどんどん家を作っていく。

E 児：(その様子を見て、自分も人形を持ち自然と遊びに入っていく。)

H 児：(何となく傍にはいるが、自分の世界で一人で遊びたい気持ちもある。)

(ずっとA児リードで遊びは続いていく。)

A 児：「Eちゃん、お姉ちゃんになってー!」

(部屋の中を散歩したり一回りしたり、A児が踊れば踊る。Eちゃん は理解力もあり、話も上手なので遊びについていけている。H児、ゆったりと自分の世界で楽しみたい子。貸し借りがまだ難しく、かたくなに黙って物を押さえている事もある。)

(そのうちに、お互いに思うようにいかず揉めだす。A児が訴えてくる。)

■ 協議してみましよう

○ 小規模保育園における、異年齢保育での難しさを感じる事はどのようなことでしょうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 小規模保育園で、他の園の子と関わったり、何か一緒に楽しめたりする活動はありますか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「小規模保育園の毎日」

■ この園での取組

- 「Aちゃんだったら、どう思う？」とまず自分自身で考えていける様声を掛けていく。
- H児には、嫌な思いをしたり、しつこくされたりした時には、嫌だという事を伝えていくとよい事を伝え、言葉を補っていく。
- それぞれの子に合った対応を考え、一緒に遊びたいという気持ちを大事にして見守っていく。

■ ワンポイント

- 職員一同で4歳児A児の対応、活動を就学に向けて考える。

あるある研修 「Somebody Carry Me!」

■ 主な内容

- ・ 幼稚園生活 2 年目の年中児 A 児
- ・ 登園降園時の身支度や課題保育中はやるべき事がわかり、意識的に取り組んでいる。
- ・ 一方で、自由保育中は保育者のところにやってきて「抱っこ」と両手を広げる。
- ・ 抱っこをしてもらえないと怒って、抱っこをしてくれる人を求めて違う保育者のところへ行くなどする。

■ 幼児と保育者のようす

(ある日の A 児の様子)

保育者：遊ぶ時間ですよ

A 児：抱っこ、抱っこ

保育者：抱っこすると満足そうな様子、降ろそうとすると全力でしがみついてくる。

(別なある日の A 児の様子)

A 児：抱っこ、抱っこ

保育者：Bさんと約束してるので、今はできないな。

A 児：不満そうな顔をする。別の保育者に抱っこをお願いする

(また別なある日の A 児の様子)

珍しく保育者に抱っこをお願いしにこない A 児

A 児：じゃあここはベッドね

C 児：いいよ。私は、お母さん役をやりたい

A 児：うん、いいよ。私は赤ちゃん役ね

(二人の世界でごっこ遊びが展開されている)

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ A児のように自由保育中だけ、保育者を求める行動が見られるのには、どのような要因があると考えられるでしょうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ A児が今後、自分の力で遊びを展開し、遊び込んでいくためにはどのような援助や配慮が必要と考えられるでしょうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「Somebody Carry Me!」

■ この園での取組

- 月に2回実施している「子どもについてのカンファレンス」でA児の姿を取り上げた。
- カンファレンスの中で、①抱っこを求めたときには、可能な限り応じること②抱っこに来ないときのA児の行動を観察して、どんな遊びに興味をもっているのか、遊びのどんな要素に魅力を感じているのかを知るために事例を集めること③園生活以外の部分で環境の変化はなかったかを保護者から聞き取ること
- カンファレンス後、抱っこに来ない日は同年齢のことおうちごっこをしていることが多く、自分の想像したように遊びを進めることが楽しい様子であった。
- 家庭では、早い段階から自分のことは自分でするようにという関わりが多く、年齢が上がってくると抱っこはほとんどしていないということだった。
- 再度、カンファレンスを行って、A児が遊んでいるときに遊びが途切れてしまわないように保育者が仲裁に入り、遊びを広げられるように環境を整え、抱っこの要望には応えるようにした。

■ ワンポイント

- 5領域の人間関係との関連性
- 子どもの育ちを支えるために、継続した話し合いや援助の場をもつ
- 幼児の行動から対応のみを考えるのではなく、その行動に至る要因を子どもに関わる全ての視点で考える。
- ポジティブアプローチの考え方を参考にして、その子の気になる面だけではなく、よい面、長所について職員間で共有する。

あるある研修 「先生はこないで！」

■ 主な内容

- ・今年から同じクラスになった男児2人
- ・活発な男児同士、ぶつかってしまうこともよくある。
- ・お互いに意見を言い合うことが多かったので、折り合いをつけられるところを探していた
- ・ある日の自由遊び時、泣き声と共に周りの友だちから報告が入った
- ・保育者が仲裁に入ろうとした時…

■ 幼児と保育者のようす

(ある日、クラスの女児からAくんとBくんが喧嘩をしているという報告があった)

(目撃者によると一緒に遊んでいる最中に物の取り合いが起きてしまったそう…)

(Aくん、Bくんが言い合いをし、揉めている。保育者に気付き焦った表情になり…)

保育者：「何があったの？」

Aくん：「いいから、先生はこないで」

(誰にも聞かれないといた表情で人気がない所へ行こうとしている)

Aくん：「Bくん、あっちに行こう」

(泣いて怒っているBくんだったが、しかたなくAくんに連れられていく)

(しばらくすると2人が話をしながら戻ってきた)

(解決した様子だが、どのように解決したのか聞いてみると…)

保育者：「もう大丈夫なの？もし怪我をしていたら大変だから、先生に教えてくれない？」

Aくん：「Bくんと遊んでいたら喧嘩になってしまったの。だから話し合いをしてきた」

保育者：「どういう話し合い？」

(とても誇らしげな表情で)

Bくん：「2人とも剣を使いたいから、順番に使おうって決めた。」

Aくん：「最初にAが使って、次にBくんが使うことにした。」

(お互いに顔を見合わせながら、少し照れたように教えてくれた)

保育者：「2人で決めたんだったらいいと思うよ。仲直りできたんだったらまた遊びに行っておいで」

A・Bくん「行ってきまーす！」

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 男児が「先生はこないで」といった言葉にはどのような意図があったと考えられますか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ けんかの仲裁に入る際にあなたが大切にしていることは何ですか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「先生はこないで！」

■ この園での取組

- 自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを聴くなど、話し合いの時間を取るようにしている。
- 「人を喜ばせる」を学年の合言葉とし、喜びを分け合いながら相手を尊重し、思いやれる心を育てている。
- 主体的に活動していけるよう子ども達に問いかけ、一緒に考えながら取り組んでいける保育を意識している。
- 保護者にも成長を見も持っていただけるよう「対話」を心掛け、気持ちや行動の過程や変化等を伝えている。
- トラブルが起きた時は大人の思い込みによる一方的な注意ではなく、子ども達から前後の様子や双方の気持ちを聞き、納得できる方法を子ども達と探している。
- 子ども達が自分で気持ちを伝えたり、感情のコントロールができるよう、保育者が介入しすぎないように見守ることを大切にしている。
- 様々な体験（人間関係・食物の栽培・町内の散策等）から「いのち」について考え、子どもたち自身が「いのち」を大切にしていけるような心を育てている。

■ ワンポイント

- 子ども達同士のトラブルは様々なものがあります。お互いが気持ちよく解決していけるためにはどのような対応が必要となるでしょう。
- 保育者が介入する場合、どのような心掛けが必要か考えてみましょう。

あるある研修 「ぼくを見て」

■ 主な内容

- ・ 一つ大きいクラスになること、新しい友達や先生が増え、期待感が高まる4月。
- ・ 4歳児のAくんは、新しい環境や新しい担任（新人教員）との出会いに、毎日わくわくした気持ちで登園していた。
- ・ 進級してから数日が過ぎた頃…Aくんのどことなく落ち着かない様子が目立ち始める。
- ・ 突然、保育室から飛び出ていったり、棚の上に上ったり、友達の嫌がることをして喜ぶ等
- ・ 担任は、そんなAくんの姿に戸惑いを感じ、Aくんと関わる上で何かヒントになることはないか前年度の担任に相談をしてみる。→新人の職員ということもあり、「この先生がどこまで自分のことを受け止めてくれるのか等、Aくんなりに探っているのではないか。」とのことであった。
- ・ まずAくんとの関係性を築いていくために、Aくんと個別の関わりを大切にしていた。

■ 幼児と保育者のようす

- ◎ ホールでの合同保育の時間
Aくんが突然、保育室への向かい走って行く。
どうしたものかと思い、担任が追いかけていくと…
 - ◎ 保育室の机の上にAくんが立っていた
- 担任：Aくん、どうしたの？そこは危ないから降りようね
A児：…嫌だ。
担任：落ちたら痛いよ。何かあったのかい？
A児：（静かに頷く）
担任：お話してごらん。まずは先生のところにおいて
A児：（首を振る）
担任：降りたくないの？…先生が抱っこして降ろしてあげようか？
A児：（しっかりと担任の顔を見て頷く）
- ◎ 担任に抱きしめられ、嬉しそうな表情のAくん
 - ◎ この時に、Aくんは注意をされるような行動をあえてとっているのではないかと予想
 - ◎ その他でも同じように、保育者の（担任の前で特に）意識を向けるための行動が目立った
 - ◎ 担任は、Aくんと個別の関わりを大切にするとともに、集団の場でも特に気にかけてAくんに視線を送ったり、言葉をかけたり、“Aくんのことをしっかり見ているよ”とアピールしていった
 - ◎ 少しずつ、担任に対して自分の気持ちを素直に伝える姿やAくんから触れ合いをもととする姿が見られるようになっていった。

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 保育者の気を引こうとあえて危険な行動をとろうとする子への対応はどのようにすべきですか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ Aくんのように個別の関わりが必要な場合、担任の新人職員へはどのようなサポートが必要だと感じますか？

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「ぼくを見て」

■ この園での取組

- これまでの生活から新しい環境へと変化する年度の切り替わりの時期は特に、様々な子どもの姿があることを予想し、引継ぎを十分に行い、子ども一人一人の理解に努める。また、子どものありのままの姿を受け止めながら、触れ合いを丁寧に行う中で、信頼関係を築いていくことを大切にする。
- Aくんは担任に対して、“自分のことだけを見てもらいたい” ” 気にして欲しい” との思いから、あえて注意を受けるような行動をとって、自分の存在をアピールしているのだと感じた。そこでまずは、担任とAくんの個別の関わりを密に図ることを大切にした。例えば、複数職員で保育に当たる合同保育時間には、特にAくんと一緒に遊ぶ時間を多く設けたり、Aくんの隣で給食を食べたり、午睡時には優先的に入眠の促しを図ったり、気持ちが落ち着かない日には、ホールにいて担任とAくんの二人で過ごす時間（他の子ども達は副担任が保育に当たる）をつくる等していった。
- その時々状況を見ず、自分の興味のおもむくままに行動をとってしまう傾向があったAくんは、普段から大人（両親）に叱られる機会が多かった。相手に褒められたり認められたりする経験を重ねていくことが、色々な場面での意欲や安定した生活に繋がると思った担任は、例えば、クラスみんなで何か決める際、Aくんの発言や発想を拾って全体に伝えたり、Aくんの友達に対する思いやりのある行動を周りの友達に伝えたりすることなどを丁寧に行った。
- ◎ ユーモアで想像力豊かなAくんは、遊びのルールを自分たちで考えるなど、色々なアイデアを積極的に周囲の友達や保育者へと伝えながら、自分たちで遊びを進めていくような積極性が見られるようになり、生活も安定していった。

■ ワンポイント

- 子どもひとりひとりが安心できる環境とは、どのようなもの（保育者との関わり・場）なのか、具体的に考えてみましょう。
- 何もかもが初めての新人の先生が、ひとりで課題を抱えるのは負担であるため、相談しやすい職場環境を作れているか、職員全体で課題や改善策を共有し、話し合い、方向性を見いだせる職員体制となっているか見つめ直しましょう。

あるある研修 「カナヘビを見ていたいR君」

■ 主な内容

- ・年長児。3兄弟の長男。弟と妹がいる。
- ・年中児に転園してきた。
- ・転園前に過ごしていた園では、少人数の異年齢集団であったことから、同年齢児との関わりが少なかった可能性がある。
- ・自己主張が強く、友達とのぶつかり合いが多いR君。学年でカナヘビを育てることを決めて、エサを探すために園庭に出る。
- ・みんなでエサやりをしようと園庭に出たが、カナヘビを飼育しているゲージを独り占めしているR君。
- ・友達から「R君のだけじゃない。みんなにも見せてよ！」と言われるが、頑なにゲージを離そうとしない。

■ 幼児と保育者のようす

友 達（数人）：先生、R君がみんなにカナヘビ見せてくれない！
 R 君：…（ゲージを離そうとしない）
 保育者：みんなで育てようって決めたカナヘビなんだ。R君も見たいよね。みんなも同じ気持ちみたいだよ
 友 達：R君だけずるい！見せてよ！（無理矢理ゲージを取ろうとする）
 R 君：…（ゲージを離さず黙り込む）
 保育者：R君、一度話そうか（ゲージをもらい、友達へ渡す）
 R君は、もっとカナヘビを見たかったの？
 R 君：…（うつむく）
 保育者：R君は何をしたかったのか気持ちを伝えられると思う。先生も知りたいし、友達も教えてくれないとわからないと思うよ。あのカナヘビは友達が捕まえて、みんなで育てるって決めたカナヘビなんだ。R君だけのカナヘビではないし、ずっと（ゲージを）持っていたら、みんなも怒ってたよ
 R 君：…（その場で黙り込む）

～しばらくそっとして様子を見る～

保育者：R君、ちょっと来てくれる？（ベンチに座りR君を膝の上に乗せる）
 もっとカナヘビ見たかったの？
 R 君：（頷く）だって、みんな見てるからあんまり見れないんだもん
 保育者：そっか。カナヘビは大人気だから。何かお手伝いとかしているの？
 R 君：〇〇（下の子）のお世話いつもしてるよ！
 保育者：R君は家でも子ども園でも頑張っているんだね。ねえ、カナヘビをたくさん見られる作戦考えようよ
 R 君：1番に給食食べたら、みんなが食べ終わる前に見られるかも！
 保育者：よし、じゃあ急いで給食の準備しようか！

～R君とみんなのもとへ戻る～

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ R君の家庭背景を踏まえるとどのような関わりが適切だったのでしょうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 家庭背景により、不安定になる子に対して、配慮している関わり方はありますか

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「カナヘビを見ていたいR君」

■ この園での取組

- 途中入園だったこともあり、集団生活の経験の差があることを考慮し、少人数でのグループ活動などを取り入れる機会を設ける。
- 赤ちゃんが生まれたこともあり、家庭では我慢することが多く、親に叱られることも増えている。園では家庭での状況を踏まえて、甘えられる状況や、思いを受け止められるような保育者の意識を学年で共有している。
- 森の活動で捕まえた「みんなのカナヘビ」。R君はそのことをわかりつつ、もっと見ていたい気持ちが強かったので、一度落ち着く時間を設けることで、向き合える環境を整える。
- 保育者に依存する傾向があるので、普段の友達関係の見直しを図り、少人数の生活グループや活動場면을編成することで、無理なく友達関係を構築できるよう促していた。
- 友達とぶつかることは多いが、その都度本児の気持ちに向き合うことを留意している。また、友達との嫌な経験を積むのではなく、楽しかった経験を増やすことで、親しい友達と関わる際に相手の気持ちを汲み取ろうとしたり、少し我慢したりする気持ちが芽生えるように促している。
- 保護者との連携で、園と家庭の状況を踏まえた関わりが出来るように、配慮している。

■ ワンポイント

- 家庭の状況は様々である。保護者との連携を通して、家庭と園の生活を無理なく過ごすためには、どのような組み立てが必要なのでしょうか。
- R君の寂しい・甘えたい気持ちをどのような形で受け止めることが出来るでしょうか。
- 友達関係を築く方法は沢山あると思います。R君にとって、友達関係を築くにはどのような関わりが効果的と考えられるでしょうか。

あるある研修 「給食を食べたくないNくん」

■ 主な内容

- ・ お盆時期が終わった頃
- ・ お盆期間に保育所をお休みしていたNくん
- ・ 給食の時間になると、元気がなくなる。
- ・ 給食と持参のご飯にほとんど口をつけない。
- ・ 無理に食べさせたくないが、全く食べないというのもお腹がすくのではないかと心配になる担任。
- ・ 送迎時、母に報告する。母は「お盆期間でリズムが乱れてしまったのかも…」と言っていた。
- ・ 持参するご飯の量をかなり減らしてほしい、と担任より母にお願いする。

■ 幼児と保育者のようす

(Nくんの母に「ご飯の量を減らしてほしい」とお願いした次の日の給食時間)

Nくん：せんせい、見て！

(笑顔のNくん。手元には、新しいお弁当箱が。)

担任：うわあ、かっこいいね！良かったね。

(新しいお弁当箱はとても小さめで、その中にはほんの少しのご飯が入っていました)

担任：Nくん、これなら食べられそうかな？

Nくん：うん！

(おかずの量も減らし、Nくん、笑顔！前日まではご飯が食べられず、一粒、二粒ずつ食べていたNくんでしたが、無事完食しました。)

Nくん：せんせい、全部食べたよー。

担任：すごいねNくん、がんばったね。

(給食とご飯を残さず食べることができて、Nくんは満足そうでした。)

(その日のお迎え時、Nくんの前で、母にNくんがご飯を残さず食べることができたことを伝えました。Nくんは母にも褒められ、とても嬉しそうでした)

Nくん：明日も全部食べるよ！

(その日以降、Nくんは給食もご飯も残さず食べています)

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 保育者がお母さんに「ご飯の量をかなり減らしてほしい」と言ったことには、どのような意図があったのでしょうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 給食を食べたくない、食べない子に関わる時、大切にしていることはなんですか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「給食を食べたくないNくん」

■ この園での取組

- 嬉しい・楽しいはずの給食時間を、苦痛な時間にしない。
- 少ないご飯とおかずでも、完食したということでNくん達成感・満足感を味わって欲しかったので、お母さんには持ってくるご飯を極端に少なくしてもらい、おかずは本人の希望どおり減らした。
- 完食したNくん「すごいね」「やったね」など声をかけ、完食できた喜びを共有した。
- まわりの友だちも「すごい!」「えらい!」など発言し、Nくんのモチベーションもあがった。
- Nくんのモチベーションがあがったことにより、苦手なものも少しずつ口にするようになった。また、食べる早さもスピードアップした。
- Nくんを取り巻く人々（保育士・保護者・友だち）が、給食を食べられなくなったNくんを認め、決してマイナスなことばかりをかけることなく、励まし、褒めたことにNくんも応えてくれた。保育士と保護者、友だちの連携がうまくいったと思う。

■ ワンポイント

- 休み明けで環境の変化に対応できない子への関わり方などについて、保育所としてどのような工夫ができるか考える。
- 職員間で情報を共有し、それぞれが改善策を考え意見交換をし、子ども達にとってより良い保育を提供できるようにする。